

## 寄贈品コーナー「新資料展(自然部門)」

2008年

5月10日(土)～6月1日(日)

今月は自然部門の新資料を紹介します。

天文分野では、火星の三球儀・ホームズ彗星・江戸期から明治期始めの暦を展示します。「火星の三球儀」は、地球のすぐ外をまわる火星の動きを再現する展示装置で、星座の中を逆行する動きを再現できます。ホームズ彗星は、2007年10月に突然増光し、2等星という肉眼等級になった彗星で、その記録写真を天体観察会会員の国友さんが主に撮影されました。また、暦は、「今年 はうるう年」展に際し収集した、旧暦(宝暦暦、寛政暦、天保暦)と明治6年改暦による新暦です。

地質部門では、最近寄贈された市内のボーリング標本と報告書とサンゴ標本を展示します。ボーリング資料は、普段見ることのできない平塚の地下の様子を示す資料で、各学校へ貸し出し、学校教材として活用されています。サンゴ標本は、前東海大学相模高校の門田真人氏から寄贈いただいた丹沢のサンゴ化石と原生のサンゴです。今年は「国際サンゴ礁年」でもあり、環境指標としても、サンゴが見直されています。

生物部門では、馬入水辺の楽校で採集されたクロボシマンジュウダイの液浸標本や、平塚市長持の民家の庭で死んでいたツルクイナ、秦野市鶴巻小学校で死んでいたクロツグミやオオタカなどの剥製を展示します。



現世のショウガサンゴ。この化石が丹沢から門田真人氏により発見された。